

福山城築城400年プレ事業

福山名所コンサート

ふくやま などころ



第3回 神辺城跡と本陣

2018年10月13日(土) 10:30~12:00

会場：神辺本陣 福山市神辺町川北 528

お話 「神辺城跡と本陣について」 菅波哲郎

(元広島県立歴史博物館 副館長)

能と童謡と邦楽のコンサート

能：大島衣恵 (喜多流能楽師)

- ・菅茶山が登場する能「輛のむろの木」について
- ・謡ってみよう「輛のむろの木」
- ・仕舞「羽衣」

童謡と邦楽：奥野純子 (ソプラノ) 占部三龍 (尺八) 岡田明子 (箏)

- ・葛原しげるの童謡・歌曲
「羽衣」「たそがれの曲」「平和なる村」「月夜」
- ・葛原しげると宮城道雄による童謡曲
「ピョンピョコリン」「珠と鈴」「夜の大工さん」「お山の細道」
- ・菅茶山の漢詩による『神辺の四季』より
「春」「秋」
- ・菅茶山の漢詩による『ふるさと中条』より
「所見」「黄龍山」「寒水寺に登る道で」「黄龍山に登る」

主催／喜多流大島能楽堂 TEL 084-923-2633 <http://www.noh-oshima.com>

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会

後援／福山文化連盟 福山喜多会 エムエムふくやま

神辺城跡と神辺本陣

神辺城の現状

神辺本陣から南に位置する黄葉山の山頂は、東西に延びる稜線が数段に削平され、城郭が築かれていたことは一目瞭然である。削平された郭は1977年にその一部が広島県教育委員会によって1郭と9郭が発掘調査され、次のことが明らかになった。

【遺構】 1郭 礎石建物（5棟）、溝、石垣、石組

9郭 礎石建物（1棟）、溝、石垣

【遺物】 1郭 瓦(福島時代)、土師質土器、陶磁器片、古銭鉄釘



神辺城跡1郭発掘状況 1977年



神辺城が築かれた黄葉山（高屋川より見る）



福山城の現状（JR福山駅より見る）

神辺城の築城と終焉

神辺城は嘉吉3年(1443)に山名氏によって築かれ、その後杉原氏、毛利氏、そして福島氏と城郭・城下町が整備され、その麓には十日市、三日市、七日市を中心に城下町が形成され、備後南部の政治・経済の中心として発展。しかし、元和5年(1619)水野勝成が改易された福島氏に代わって入封すると、常興寺山に新たに福山城を築き、元和8年(1622)完成し入城する。ここに神辺城は廃城となり城下町の機能を失う。その後寛永11年(1634)参勤交代制によって参勤交代大名通行が定期化し、神辺城下は山陽道の宿場町として新たな活気を興す。



天和3年(1683)安那郡川北村絵図 部分

(福山市神辺歴史民俗資料館)

元和5年福山城築城から61年後の神辺城跡の姿

中国行程記 神辺宿 (萩市郷土館蔵)

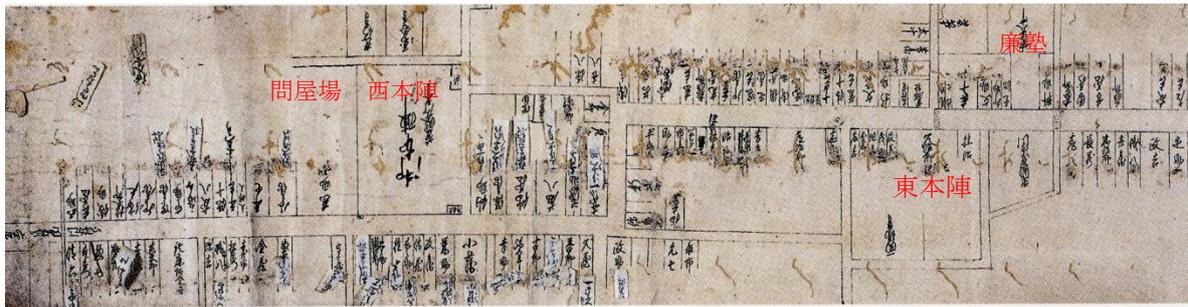
C 福山城主茶屋 A 西本陣 B 東本陣

城下町から宿場町へ

江戸時代、幕府御用通行や参勤交代大名など休泊、物資輸送の人馬の継立などが整備された。休泊には、武士・公家などの公用旅行者に応じた福山城主茶屋や本陣をはじめ、町筋の七日市・後町・三日市・紺屋町・十日市などの町屋が、そのための施設として利用された。



寄せ人馬の図



神辺宿絵図（文政年間作成・1820年代）

神辺本陣の特色

- ・基本的な本陣遺構である正門、玄関、座敷、雪隠風呂、番所が現存。
- ・本陣利用者の現存建物の使用状況が描かれ記録されている。
- ・福岡藩黒田家家紋瓦の建物など設置経緯の記録があること。
- ・大名利用時の装飾資料と設置箇所を特定出来る
- ・現存建造物の修復や新築の経緯が史料によって明らかなこと。



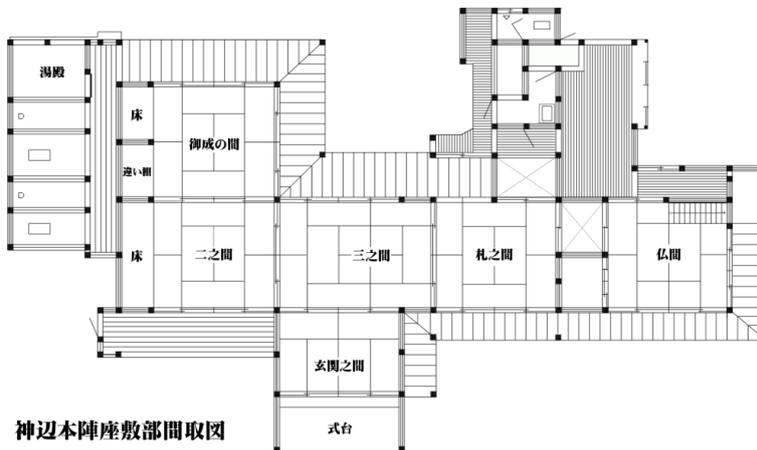
安政6年(1859) 「阿部伊予守様(正教)

御巡見御小休御間取仕様帳」より

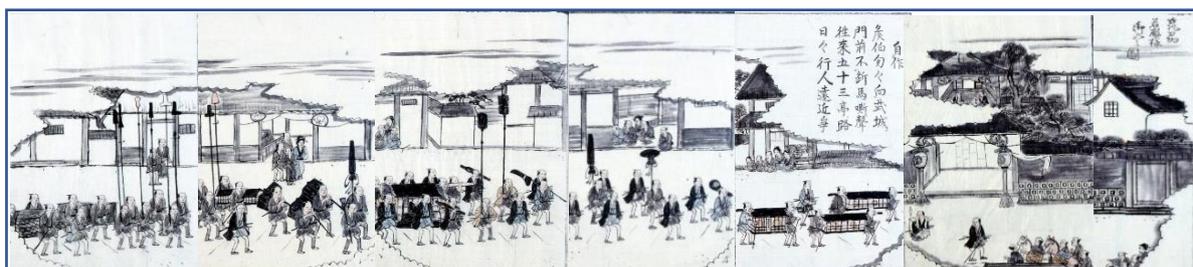
福岡藩黒田家との関わり

『菅波信道一代記』より

- ・11代目当主菅波信道は黒田家の「定本陣」を願い、嘉永4年(1649)に間届けられ、黒田家より永代二人扶持を頂戴する。
- ・見返りとして黒田家定紋の藤巴を瓦に焼入れる。



神辺本陣座敷部間取図



福岡藩若殿様御入の図（天保8年1837）

神辺ゆかりの能・人物紹介

◆新作能「鞆のむろの木」 帆足正規 作 大島政允 節付 喜多流大島能楽堂 制作

2002（平成14）年、国立能楽堂にて初演

万葉集で名高い大伴旅人が、亡き妻と眺めた鞆のむろの木を詠んだ歌三首を織り込んで作られた新作能。登場人物ワキに菅茶山が登場。夕陽村舎を立ち出でて鞆の浦にて老人の姿の大伴旅人に会い、漢詩と和歌のやりとりをする。妻を求めてさまよう旅人の前に妻の郎女が現れ、共にひと時舞を舞うのですが妻は幻と消えて、後にはむろの木だけが残るのです。

◆帆足正規（ほあし まさのり）森田流笛方（1931～2016 昭和6～平成28）年

東京都出身。京都大学文学部哲学科卒（美学美術史専攻）。

高校時代より宝生流を学び能に親しむ 大学一回生の頃より笛を学ぶ（森田流）。

1960年能楽協会入会 笛方となる。1982年重要無形文化財総合指定保持者に認定。

舞台で笛を勤めるとともに、能楽研究執筆活動も活発に行う。

新作能「鞆のむろの木」「椿井」、新作狂言「死神」「維盛」「はらべ山」等を書き、いずれも繰返し上演されている。

◆菅茶山（かんちゃざん 又は かんさざん）（1748～1827 延享5～文政10）年

近世山陽道の宿場町、神辺の生れ。

朱子学・古医方を学んだ学者。教育者であるとともに、漢詩人として有名。

神辺の地で私塾「黄葉夕陽村舎」を開いた。皆が平等に教育を受けることで、貧富によって差別されない社会を作ろうとした。塾は1796（寛政8）年には福山藩の郷学として認可され、**廉塾**（神辺学問所）と名が改められた。

1801（享和元）年から福山藩の儒官としての知遇を受け、藩校弘道館にも出講した。

当時「当世随一の詩人」と称され、平易な言葉をもって風景を写実するという新しい詩風を完成させた。その名は全国にとどろき、山陽道を往来する文人の多くが廉塾を訪ねた。

しかし生涯、多夫野人として名利栄達には傾くことなく自然と人生を純粋に見つめ、**頼山陽**など多くの弟子を育てた。

「廉塾ならびに菅茶山旧宅」は1953（昭和28）年に国の特別史跡に指定された。

◆葛原しげる（1886～1961 明治19～昭和36）年

神辺町の生れ。福山中学校（現・福山誠之館高校）卒業。

童謡作詞家、童話作家、教育者。福山市名誉市民。

祖父は盲目の琴の名手、葛原勾当。

宮城道雄と親交を結び、1917（大正6）年、「春の雨」を発表。箏を伴奏に、宮城とのコンビで多数の童曲を発表した。宮城作品全425曲のうち、葛原作詞の童曲は98曲にも及び、まだ無名だった宮城を後援者として支え、生涯変わらぬ友情を持ち続けた。

1945（昭和20）年、28年間勤務した九段精華高女が戦火によって廃校となり帰郷。

地元の私立至誠高女（広島県立至誠高校を経て現在は戸手高校）の校長に就任し、

1960（昭和35）年、勇退するまで勤務。

作詞した童謡は4000篇とも言われる。全国約400の校歌の作詞も手がけている。